

あま市人権講演会

つたえたいこと

～ハンセン病について考えよう～



人権作文発表 12:40～13:00

七宝中学校・甚目寺南中学校 代表生徒

講演 13:00～13:30

国立駿河療養所入所者自治会
駿河会会長 小鹿美佐雄 さん

映画上映 13:45～15:45

映画『あん』 監督：河瀬直美

平成30年

11月25日(日)

開場／11:30 開演／12:30

あま市美和文化会館 大ホール

入場無料《整理券が必要です・先着650名》

※整理券は10月22日(月) 午前8時30分から本庁舎人権推進課窓口
及び午前9時から美和文化会館で配布します。

1人3枚まで。定員になり次第終了します。
整理券の無い方はご入場いただけません。

手話通訳、
要約筆記あり

託児あり
(要予約)

トークショー 16:00～17:00

ドリアン助川さん × 浅田美代子さん
(映画『あん』原作者) (女優)



★ホワイエでは人権に関するパネル展等を開催しております。



©2015映画「あん」製作委員会 / COMME DES CINEMAS / TWENTY TWENTY VISION / MAM / ZDF-ARTE

「知らない」を観に行こう。

国立療養所菊池恵楓園金陽会作品展

平成30年11月25日(日)・27日(火)～30日(金)まで

9:00～16:00 あま市美和文化会館 2階 アートスペース



《奄美の風景》 大山清長 2000年

主催／あま市・あま市教育委員会

後援／名古屋法務局津島支局・津島人権擁護委員協議会・あま市小中学校人権教育研究会 協力／圓周寺・一般社団法人金陽会・一般社団法人ヒューマンライツふくおか

～考えよう相手の気持ち 未来へつなげよう 違いを認め合う心～

あま市人権講演会 つたえたいこと ~ハンセン病について考えよう~

人権作文発表 12:40~13:00

市立七宝中学校

各教科や特別活動、道徳の授業で、生徒一人一人が互いの違いを認めて尊重し合い、差別や偏見に対する人権意識を高め、日常生活においてよりよい人間関係を築くための実践的態度や行動がとれる生徒の育成を人権教育のねらいとしています。

そして、自己肯定感を高め、人間関係を円滑にするための技能を身に付けさせるため、ソーシャルスキル・トレーニング(SST)と構成的グループ・エンカウンター(SGE)を統合した「しっぴータイム」を学校教育活動の中心に捉えて実践を進めています。

また、いじめ防止の取組やリサイクルプロジェクト活動として資源回収の収益金であま市七宝総合福祉センターに物品を贈呈したり、ハートヘルスタイム講演会を通して、命の大切さについて学んだりすることで、様々な立場の人を思いやる人権尊重の精神を高める活動の充実に努めています。

市立甚目寺南中学校

本校では「すべての教育活動を通して、基本的な人権を尊重する精神と実践力の育成を図る」ことを人権教育の基本方針としています。また、昨年度からは、月一回程度、ミニ道徳タイム(「こころUPタイム」)を設けたり、総合・道徳の時間に「いのち」について考える保健指導を取り入れたりして、自分の生き方を見つめることができる生徒の育成をめざした教育活動を日々行っています。

講演 13:00~13:30

国立駿河療養所入所者自治会 駿河会会長 小鹿美佐雄 さん

駿河会会長就任以来、療養所に施設見学や研修に来所される各種団体の方々に講演を行っている。また、静岡県内外の小中学校から講師として招かれて講演を行い、各地方で行われているハンセン病問題や人権問題などを考えるシンポジウムにパネリストとして参加。

最近では企業や病院の研修・学習会などにも講演依頼を受け講話をしている。



映画上映 13:45~15:45



映画『あん』 監督：河瀬直美

どら焼き屋の店長として単調な日々をこなしていた千太郎。ある日、その店の求人募集の張り紙をみて、働くことを懇願する一人の老女、徳江が現れた。徳江の作った粒あんはあまりに美味しく、みるみるうちに店は繁盛。しかし、心ない噂が、彼らの運命を大きく変えていく……

トークショー 16:00~17:00

ドリアン助川さん × 浅田美代子さん (映画『あん』原作者) (女優)

1962年東京生まれの神戸育ち。作家・朗読家。早稲田大学第一文学部東洋哲学科卒。放送作家を経て、1990年バンド「叫ぶ詩人の会」を結成。ラジオ深夜放送のパーソナリティとしても活躍。若者たちの苦悩を受け止め、放送文化基金賞を得る。同バンド解散後、2000年からニューヨークに3年間滞在し、日米混成バンドでライブを繰り広げる。帰国後は明川哲也の第二筆名も交え、本格的に執筆を開始。著書多数。小説『あん』は河瀬直美監督により映画化され、2015年カンヌ国際映画祭のオープニングフィルムとなる。また小説そのものもフランス、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン、ポーランドなど11言語に翻訳されている。2017年、小説『あん』がフランスの「DOMITYS文学賞」と「読者による文庫本大賞(Le Prix des Lecteurs du Livre du Poche)の二冠を得る。長野パラリンピック大会歌『旅立ちの時』作詞者。

1972年、街頭でスカウトされ、国民的人気ドラマTBS「時間ですよ」新人オーディション約25,000名の中から選ばれ芸能界入り。デビュー曲「赤い風船」では第15回日本レコード大賞新人賞を受賞し大人気アイドルに。1974年、人気ドラマ「寺内貫太郎一家」に出演、同年「あした輝く」で映画初主演。社会現象ともなったドラマ「101回目のプロポーズ」(91)やNHK連続ドラマ小説「さくら」(02)、「花子とアン」(14)にも出演。映画「釣りバカ日誌」シリーズ(94~09)では15年間「ハマちゃん」こと浜崎伝助(西田敏行)の妻役・浜崎みち子役を演じるほか、出演映画には『佐賀のがばいばあちゃん』(06)、『歓喜の歌』(08)、『きな子〜見習い警察犬の物語〜』(10)、『ツナグ』(12)、『0.5ミリ』(14)、『さいはてにてーやさしい香りと待ちながらー』(15)、『あん』(15)などがある。

「知らない」を観に行こう。国立療養所菊池恵楓園金陽会作品展

平成30年11月25日(日)・27日(火)~30日(金)まで
9:00~16:00 あま市美和文化会館 2階 アートスペース

ハンセン病という言葉を知ったことはあっても、今なお全国に13ヶ所ある療養所で、余生を過ごしている入所者の方が1300人以上いらっしゃることは、あまり知られていません。

ハンセン病になったというだけで故郷に帰ることが叶わず、家族と暮らすことができなかった人たちは、1996年にらい予防法が廃止されても、90年近いあまりにも長い隔離政策だったため、年齢的な問題や偏見、差別を危惧して療養所に留まることを選択された方がほとんどです。

熊本にある国立療養所菊池恵楓園には入所者による金陽会という絵画クラブがあり、そこには850点を超える作品が残されています。今回は遠く離れた故郷や家族を想って描かれた作品を中心にをご紹介します。

また、旧甚目寺町(現あま市)は、ハンセン病を語るときに避けて通れない人物である、小笠原登医師の出身地です。国を挙げての絶対隔離政策の最中、隔離は必要ないという信念のもと、診察を続けられたその強靱な精神力はどこで育まれたのか。生まれ育った圓周寺に残されている資料に、そのヒントが隠されているかもしれません。今回の展示では小笠原登医師の描いた作品のほかに、その貴重な資料も合わせてご紹介します。

「知らない」ことを知ること。

金陽会の作品や小笠原登医師の存在は、そのことの大切さを私たちに教えてくれているのかもしれない。

(一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事 藏座江美)



《ふるさと》入江章子 1996年

お問い合わせ

あま市 企画財政部 人権推進課

TEL.052-444-0398(直通)

FAX.052-441-8330

